

## チューチャイ氏からの追悼の辞（要旨）

ご列席の皆様へ

これまで私は第二次世界大戦当時の日本軍に関する遺品や記録などを集め、クンユアム旧日本軍博物館（メーホンソン県）の建設をはじめ、ムーンサーン寺院資料館の資料展示に努力して参りました。その後、この活動は私たちタイ人と日本の皆様が手を携えて作り上げた活動になり、なかでも元将兵の方々からは多くのご協力を頂いています。

当時のムーンサーン寺院は、野戦病院として日本軍にとって重要な拠点でもありました。寺院にはビルマ戦線からの負傷兵が次々と運び込まれ、お亡くなりになられた方が何百人もいます。そのご遺体はチャンクラーンとハーイヤーの火葬場で茶毘に付され、火葬し切れなかったご遺体は湿地帯が多くあったムーンサーン寺院の周囲に埋葬されています。ご遺体はタノム氏（地元ではチャンクラーンのタノムで知られる）が中心となって寺院から牛車や荷車で火葬場へ運びました。

1978年から79年にかけて遺骨収集活動が行われました。当時を知る関係者の証言や資料から調査は進められ、情報に基づく土の掘り起こし作業から488柱のご遺骨が発見されましたが、どのご遺骨は完全な形では発見できず骨の一部分だけの収集しか叶いませんでした。当時とは町並みも一変し、雨期には土砂も流されるなど、何よりも年月を経ていることから作業は困難を極めました。特に当時を知るタノム氏がすでに他界していたことは、最も確かな証言情報を失うに等しいことであり残念でした。この収集活動で発見されたご遺骨はスワンドーク寺院で火葬し、ご遺灰は日本に帰国されています。本日この地で亡くなられた将兵の方々に偲び、皆様と一緒にご冥福を祈らせて頂きたいと思えます。

ムーンサーン寺院がまだ野戦病院でない時期、インパール作戦の生還者であった木田敏男氏は、チェンマイへ列車でサラピー駅に到着後、インパール作戦に向かう中継地としてこの寺院に宿営し、そこからビルマ国境を経てインドへと向かったそうです。木田氏によると、当時400～600人くらいが泊まれる竹で組まれた宿舎（添付の敷地図ご参照）があったと言います。木田氏は本年6月17日にチェンマイで亡くなられてこの寺院で葬儀を行い、ハーイヤーの火葬場で茶毘に付されました。ご遺灰の一部は慰霊碑の中に収めさせて頂いています。不思議なお話ですが、戦争当時にこの寺院で休息し、他界した後も同じ場所で眠り続けています。ご生前には毎年欠かさず慰霊碑にお参りに来ていた木田氏ですので、本日もいらっしゃっているに違いありません。皆様と一緒にご冥福をお祈りさせて頂き、私からの追悼の言葉とさせて頂きます。ご清聴有難うございました。

平成25年8月15日

元日泰平和財団理事長 チューチャイ・チョムタワット

私は戦争当時の遺品を数千点集め、画像処理するなど資料として残る記録にしています。私の執筆した『クンユアムの思い出』の中でも多くの資料が登場します。この本は日本語訳も完成に近づいています。ご関心のある方はお電話を頂くか私の家族直営のお店へご来店の際にお問合せをお願い致します。

CURRY SCOOP（ニマンミン通り13）※祝祭日あり

連絡先：081-9617023